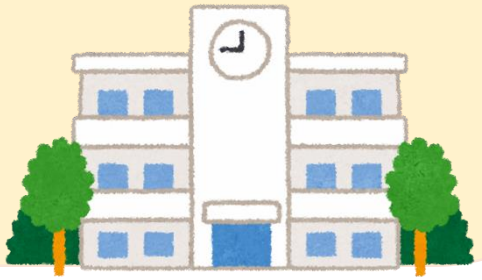
# 学校規模適正化に係る説明について

# （藤白台小学校区）

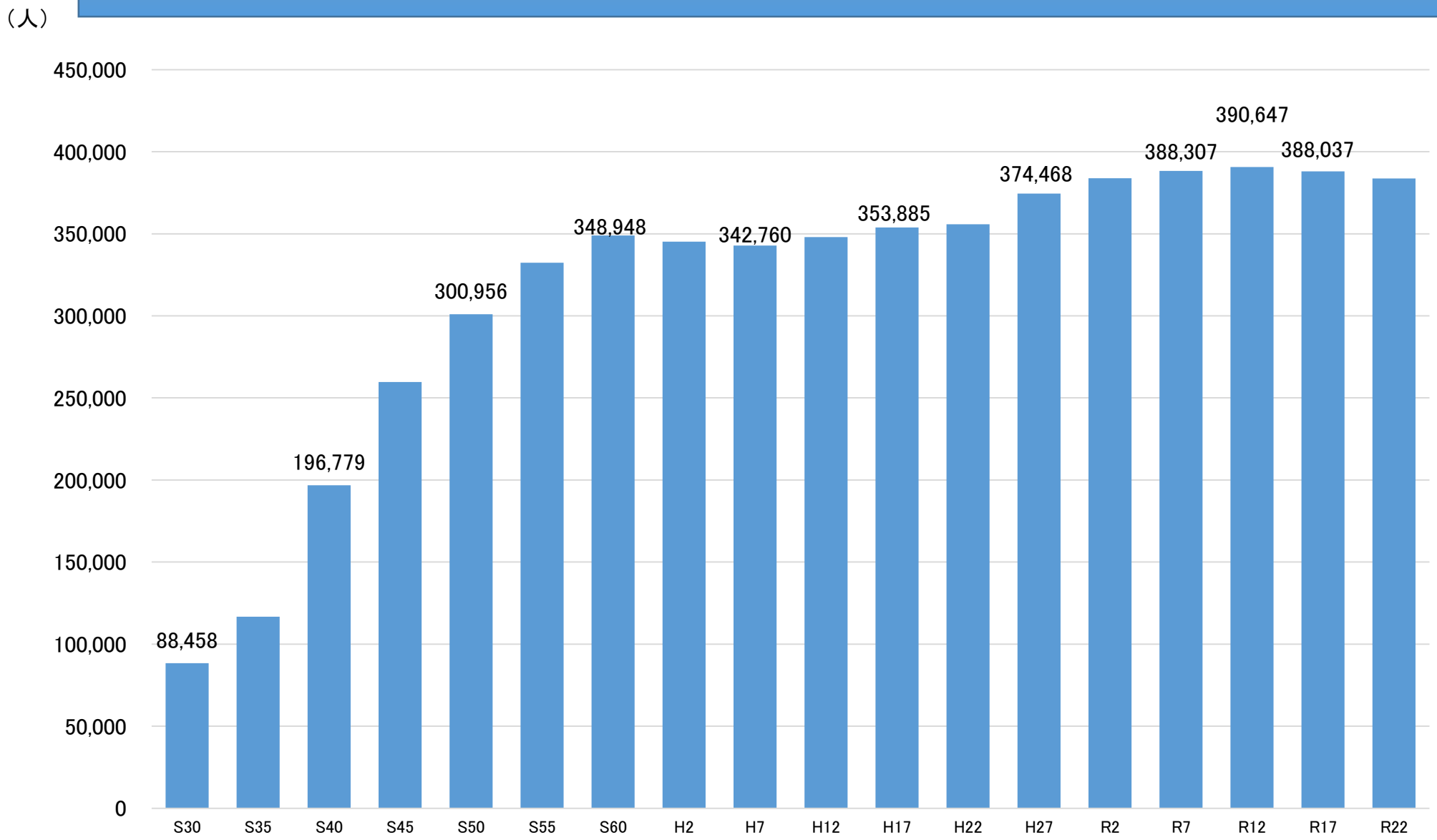
# はじめに

本市は**児童数の増加**により、**過大規模や教室不足**が見込まれる学校がある一方で、地域的には**小規模となる見込の学校**も見られるなど、児童の教育環境に対する課題があります。

また、公立義務教育諸学校の学級編制及び教職員定数の標準に関する法律（義務標準法）の改正による**35人学級編制**により、学校規模の課題がさらに深刻化していることから、**学校規模適正化**に取り組んでいます。



# 吹田市人口の推移と将来推計



# 全国自治体における人口増の状況

## 平成２７年⇒令和２年　人口増加数（全国ＴＯＰ２０）

| 順位 | 市名 | | 増減人数 |
|---|---|---|---|
| 1位 | 特別区部 | （東京都） | 471,794人 |
| 2位 | 福岡市 | （福岡県） | 74,680人 |
| 3位 | 川崎市 | （神奈川県） | 63,868人 |
| 4位 | 大阪市 | （大阪府） | 63,557人 |
| 5位 | さいたま市 | （埼玉県） | 60,612人 |
| 6位 | 横浜市 | （神奈川県） | 53,474人 |
| 7位 | 名古屋市 | （愛知県） | 37,768人 |
| 8位 | 流山市 | （千葉県） | 25,587人 |
| 9位 | 札幌市 | （北海道） | 22,709人 |
| 10位 | 船橋市 | （千葉県） | 20,082人 |

| 順位 | 市名 | | 増減人数 |
|---|---|---|---|
| 11位 | 川口市 | （埼玉県） | 16,349人 |
| 12位 | 市川市 | （千葉県） | 15,211人 |
| 13位 | 仙台市 | （宮城県） | 15,037人 |
| 14位 | つくば市 | （茨城府） | 14,822人 |
| 15位 | 松戸市 | （千葉県） | 14,813人 |
| 16位 | 調布市 | （東京都） | 13,660人 |
| 17位 | 藤沢市 | （神奈川県） | 13,261人 |
| 18位 | 柏市 | （千葉県） | 12,598人 |
| **19位** | **吹田市** | **（大阪府）** | **11,319人** |
| 20位 | 立川市 | （東京都） | 10,794人 |

※令和２年国勢調査　人口速報集計結果の要約より
※令和3年11月1日現在の市町村数1,724（政府統計より）

# 過去5年　府内児童数推移　増加数上位15団体

| 順位 | 自治体名 | H29 | R3 | H29-R3差 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 吹　田　市 | 20,418 | 21,343 | 925 |
| 2 | 豊　中　市 | 21,801 | 22,455 | 654 |
| 3 | 箕　面　市 | 8,650 | 9,245 | 595 |
| 4 | 大　阪　市 | 117,711 | 118,209 | 498 |
| 5 | 島　本　町 | 1,799 | 1,937 | 138 |
| 6 | 千早赤阪村 | 212 | 175 | -37 |
| 7 | 大阪狭山市 | 3,304 | 3,237 | -67 |
| 8 | 能　勢　町 | 336 | 268 | -68 |
| 9 | 岬　　町 | 582 | 509 | -73 |
| 10 | 太　子　町 | 690 | 614 | -76 |
| 11 | 豊　能　町 | 629 | 544 | -85 |
| 12 | 田　尻　町 | 539 | 451 | -88 |
| 13 | 河　南　町 | 811 | 713 | -98 |
| 14 | 忠　岡　町 | 936 | 810 | -126 |
| 15 | 藤井寺市 | 3,515 | 3,378 | -137 |

# 藤白台小学校　施設規模

昭和40年（1965年）開校

校地面積

| | |
|---|---|
| 建物敷地 | 15,543㎡ |
| 運動場 | 8,176㎡ |
| 合計 | 23,719㎡ |

教室数

| | |
|---|---|
| 普通 | ２４ |
| 特別 | １０ |
| 支援・学童 | １１ |
| 合計 | ４５ |

# 藤白台小学校区の住宅開発状況

・藤白台１丁目の共同住宅開発

・藤白台３丁目の共同住宅開発

・府営住宅活用地（藤白台1丁目）

・府営住宅活用地（藤白台3丁目）

・国立循環器病研究センター跡地（藤白台５丁目）

# 義務標準法の改正による３５人学級編制の影響

## 令和３年４月１日　公立義務教育諸学校の学級編制及び教職員定数の標準に関する法律改正

**令和７年３月３１日までの間における学級編制の標準を、第６学年まで段階的に３５人とする。**

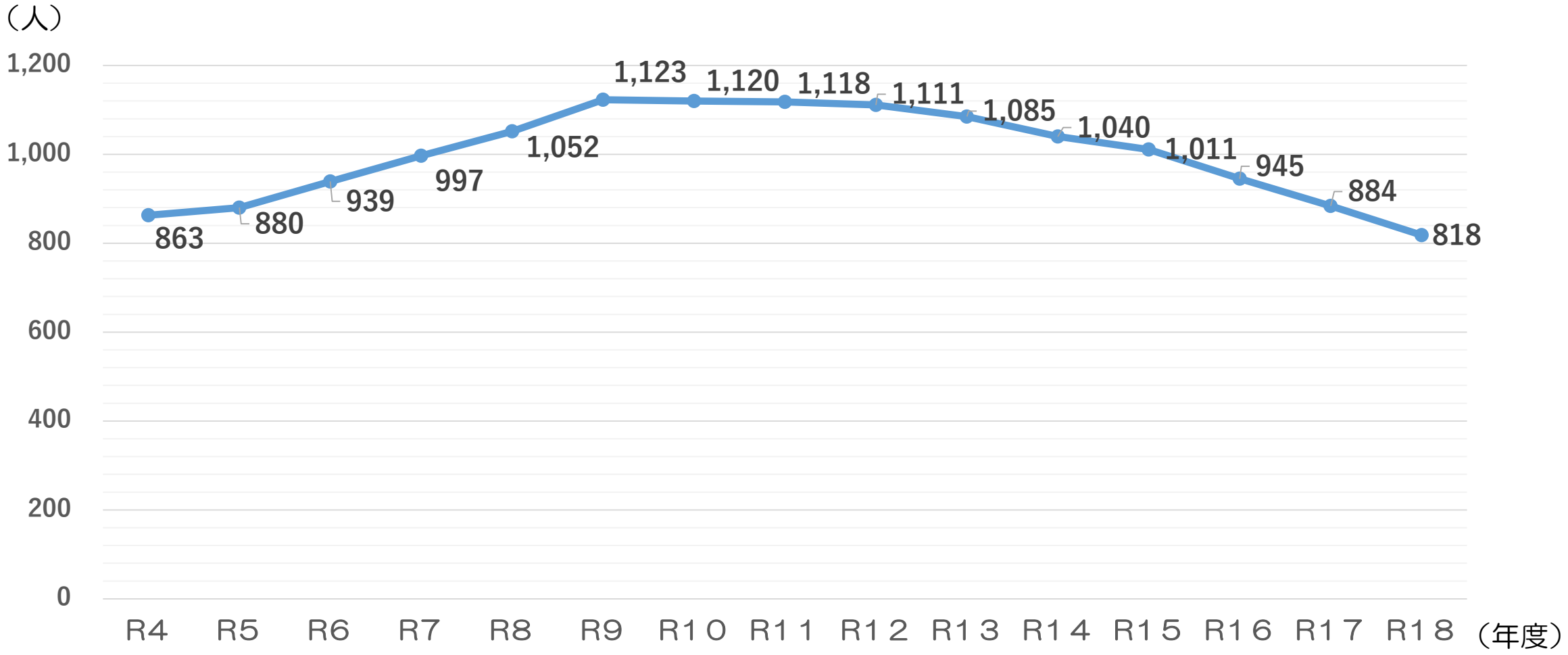
３５人学級編制の影響

| | Ｒ９までの最大必要教室数 | 増加数 |
|---|---|---|
| 現行の学級編制 | ７４９教室 | ５０教室増 |
| ３５人学級編制 | ７９９教室 | |

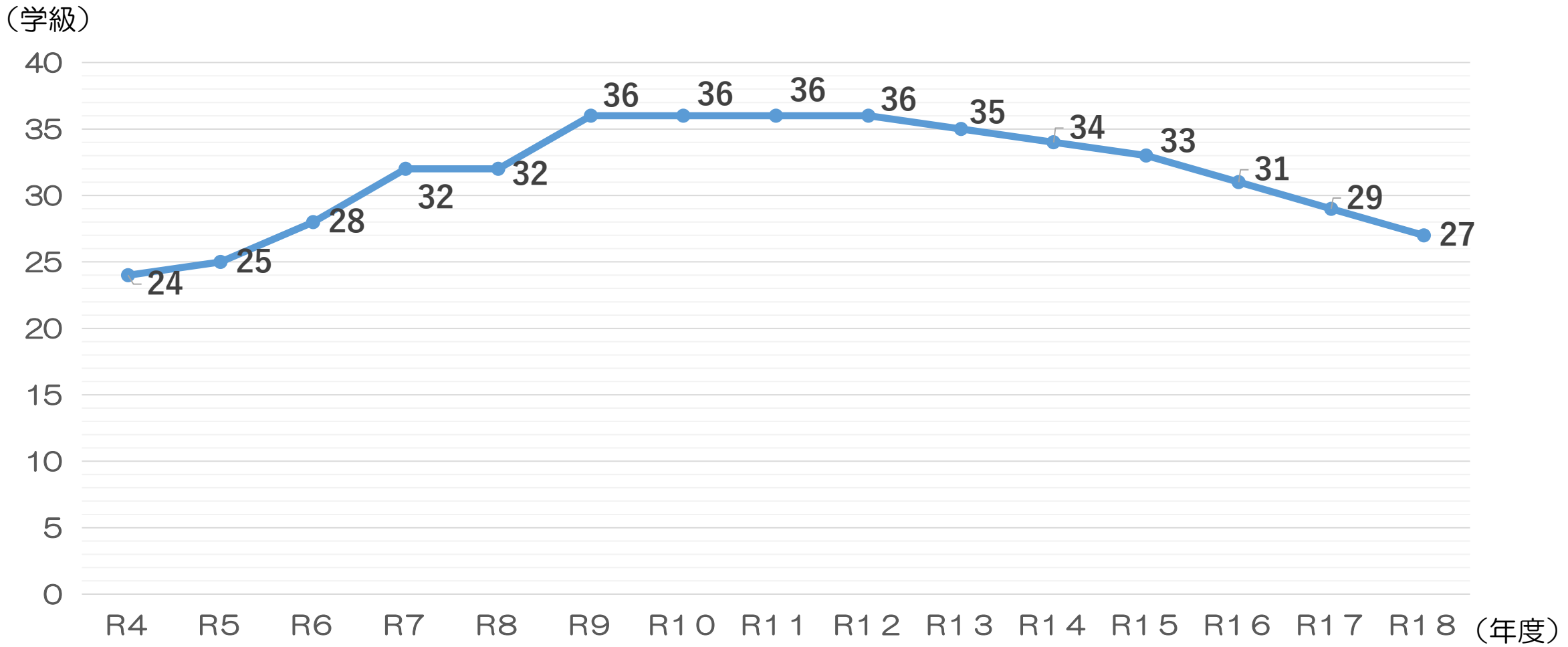
※通常学級のみ

※学校規模適正化基本方針（令和3年11月策定）のデータを元に作成

# 藤白台小学校の児童数のR3年度推計



# 藤白台小学校の学級数のR3年度推計

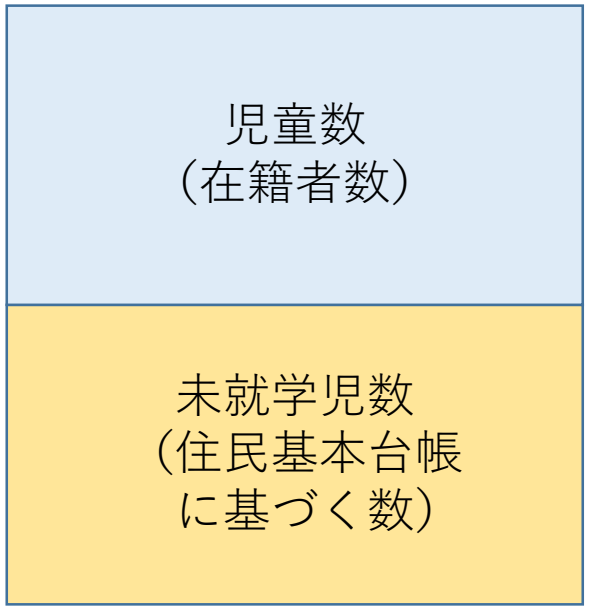


# 児童数推計の考え方

## プラス

大規模・中規模住宅開発
- ・藤白台１丁目の共同住宅開発
- ・藤白台３丁目の共同住宅開発
- ・府営住宅活用地（藤白台1丁目）
- ・府営住宅活用地（藤白台3丁目）
- ・国立循環器病研究センター跡地（藤白台５丁目）

＋

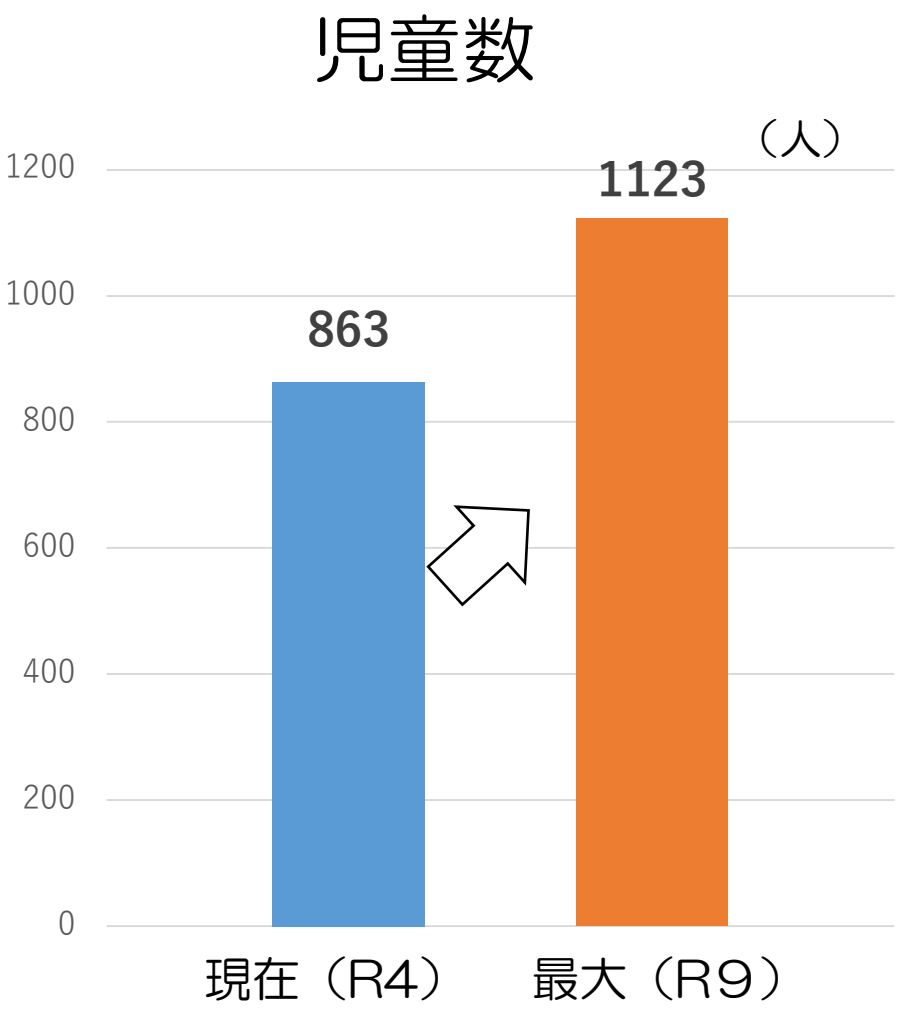


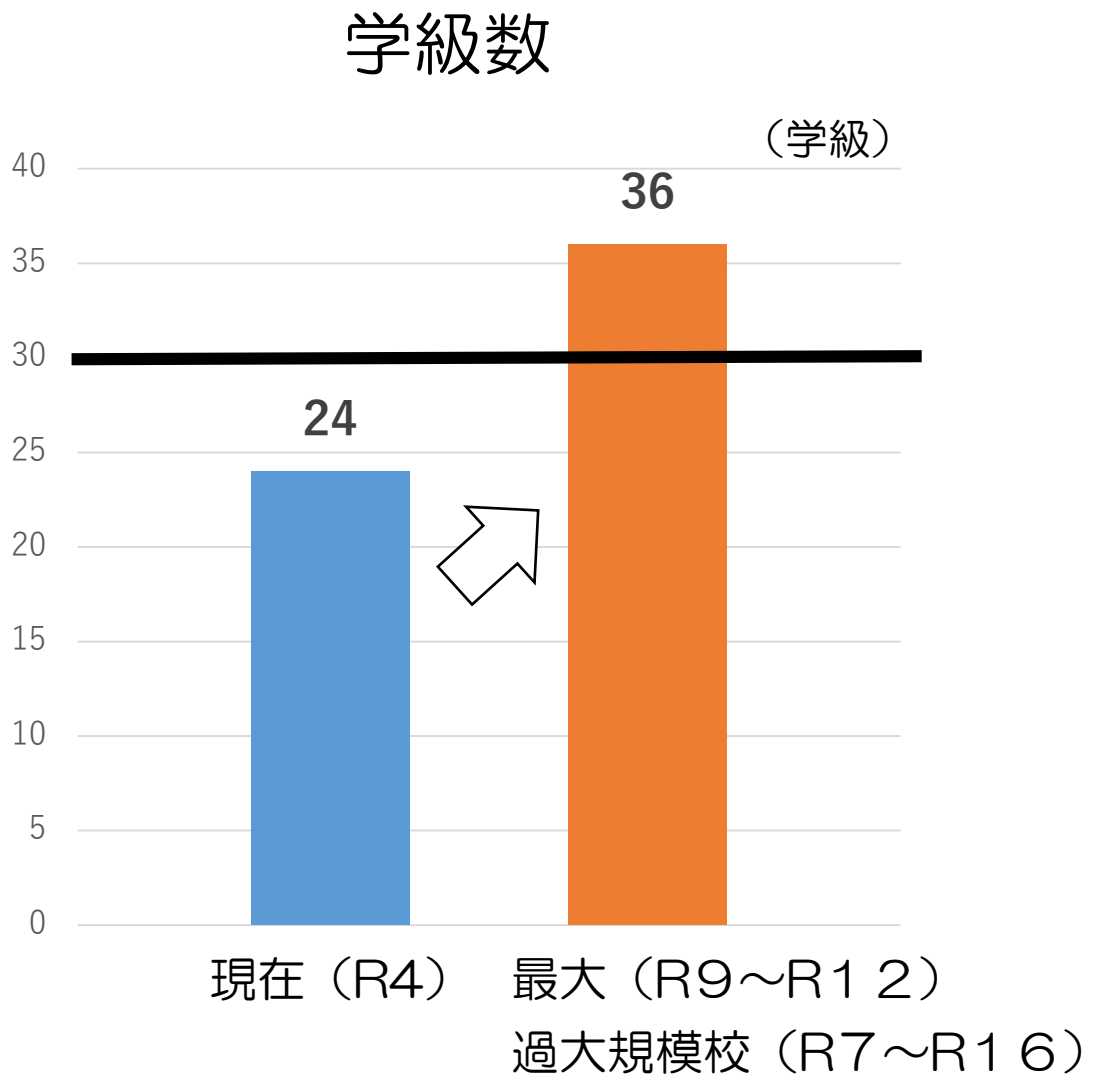

－

## マイナス

- ・私立小学校入学者
- ・市立以外の国公立入学者
- ・支援学級入級者

# 藤白台小学校の現状とR3年度推計比較



# このまま学級数・児童数が増加すれば

【新たにできること】

- 児童や教職員が多い分、いろいろな人との出会いがある。
- 多様な考え方に触れる機会や学びあいの機会、切磋琢磨する機会が多くなりやすい。
- クラス替えが可能となり、新たな人間関係や多様な集団の形成が図りやすい。
- 運動会や音楽会などの集団活動や学校行事に活気が生じやすい。

## 【できなくなること（人間関係と設備）】

- ６年間１度も同じクラスにならない子供が出る。（関係が希薄）
  クラス替えで人間関係がリセットされ、トラブルが予想される。（けんかや不登校）
- 人数が多く異学年との交流ができず、上級生への憧れを持つことや異年齢集団での活動による成長の機会が減る。
- 全教職員が充分にすべての子供を把握し共通理解を図ることが困難。
- 長休み（２０分）や昼休みに運動場で遊べる学年で制限がかかる。
- 休み時間にトイレに並ぶ子どもが増える。
- 保健室での対応に限界がある。（保健室は１つ←空き教室もない）
- 図書室へ学年ごとの使用など自由に行けない。
- 給食の配膳室の限界がある。（配膳室は１つ←空き教室もない）

## 【できなくなること（授業）】

- 体育の授業に支障が出る。（グラウンド・体育館・プール）
  雨天時体育館、夏季プールにどのクラスも集まる。
  　例：体育館に４学級で実施し、ドッジボール等できない。
  　　プールに４学級で実施し、１学級２コース分しか使えない。
- 理科室などの使用に制限かかる。実験の回数が他校と比べて減る。
- 修学旅行や校外学習で移動や集合に時間がかかり、活動時間が減る。
- 行事での一人ひとりの仕事（役割）の機会が減る。その結果、役に立ったという自己有用感を持つ機会が少なくなる。
  　例：運動会の出場種目の制限や音楽会の楽器の選択ができない
  また、全学年開催行事が困難になり、保護者の入場制限も必要。
- 災害発生時、全員の避難に時間がかかり危険。

# 運動場 使用状況比較

## 標準規模校（14学級）

| | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 1年 | 5−2 | 3−1 | 6−2 | |
| 2 | 5−1 | 1−1 | 3−2 | 支援 | 4−1 |
| 3 | 2年 | 1−2 | 1−3 | 2−1 | 4−2 |
| 4 | 3年 | 1−3 | 3−3 | 2−2 | |
| 5 | 6−2 | 4−1 | | 5−1 | |
| 6 | 6−1 | 4−2 | | 5−2 | 6−1 |

## 大規模校（28学級）

| | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | | 3-1<br>3-3 | 4-2<br>4-4 | 2-1<br>2-2 | 5-1<br>5-2 |
| 2 | 6-3<br>6-4 | 1-1<br>1-3 | 4-1<br>4-5 | 1-1<br>1-2<br>1-5 | 5-3<br>5-4 |
| 3 | 6-1<br>6-5 | 1-2<br>1-4<br>1-5 | 2-1<br>2-2 | 1-3<br>1-4 | 3-2<br>3-4 |
| 4 | 3-2<br>3-4 | 4-3<br>4-5 | 2-3<br>2-4<br>2-5 | 2-3<br>2-4<br>2-5 | 3-1<br>3-3 |
| 5 | 5-1<br>5-2 | 6-2<br>6-4 | | 4-2<br>4-3 | |
| 6 | 5-3<br>5-4 | 6-3<br>6-5 | | 4-1<br>4-4 | 6-1<br>6-2 |

# 体育館 使用状況比較

## 標準規模校（14学級）

| | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 1年 | | | | |
| 2 | | 支援 | | | 1－3 |
| 3 | 2年 | 2－1 | 4－1 | 3－2 | 1－2 |
| 4 | 3年 | 2－2 | 4－2 | 3－1 | 1－1 |
| 5 | | 6－2 | | 3－3 | 5－2 |
| 6 | | 6－1 | | | 5－1 |

## 大規模校（28学級）

| | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 6年 | 3-4 | 5-3 | 4-5 | |
| 2 | 2-3<br>2-5 | 3-2 | 5-1 | 6-3 | 1-2<br>1-4 |
| 3 | 3-3 | 2-2 | 5-1 | 6-1 | 1-1<br>1-3 |
| 4 | 3-1 | 2-1<br>2-4 | 5-4 | 6-4 | 1-5 |
| 5 | 4-3 | 4-1 | | 6-5 | 支援 |
| 6 | 4-4 | 4-2 | | 6-2 | |

# 過大規模校における運動会風景（31学級）

# 学校規模の分類・課題解決を図るべき範囲

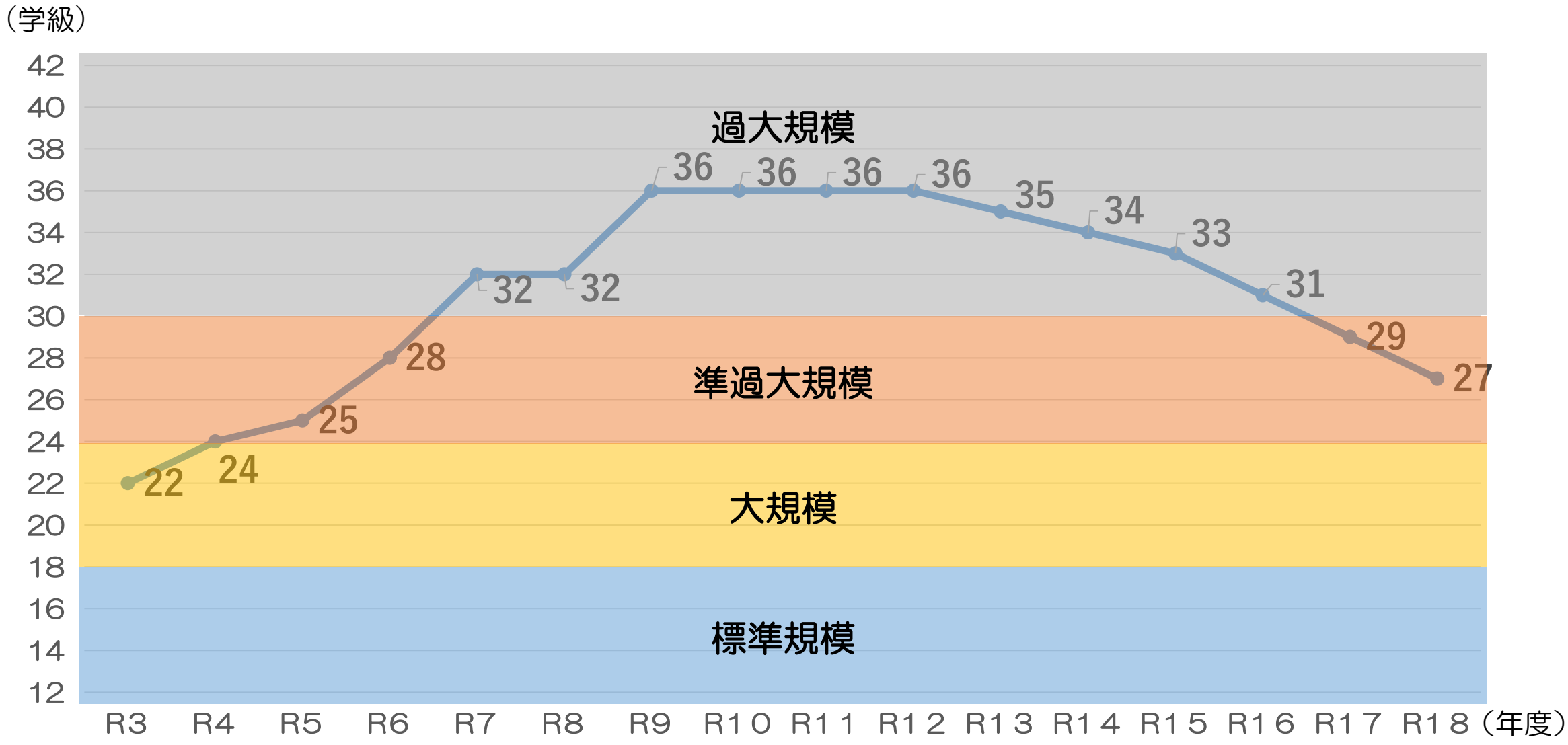
| 区　分 | 通常学級数 | |
|---|---|---|
| | 小学校 | 中学校 |
| 過大規模校 | 31学級以上 | 31学級以上 |
| 準過大規模校 | 25～30学級 | 25～30学級 |
| 大規模校 | 19～24学級 | 19～24学級 |
| 標準規模校 | 12～18学級 | 12～18学級 |
| 小規模校 | 7～11学級 | 7～11学級 |
| 過小規模校 | 6学級以下 | 6学級以下 |

要是正

要検討

要是正

# 藤白台小のR3年度学級数推計



# 学校規模に関する基本的な考え方

- 子供たちにとってより良い教育環境を作る

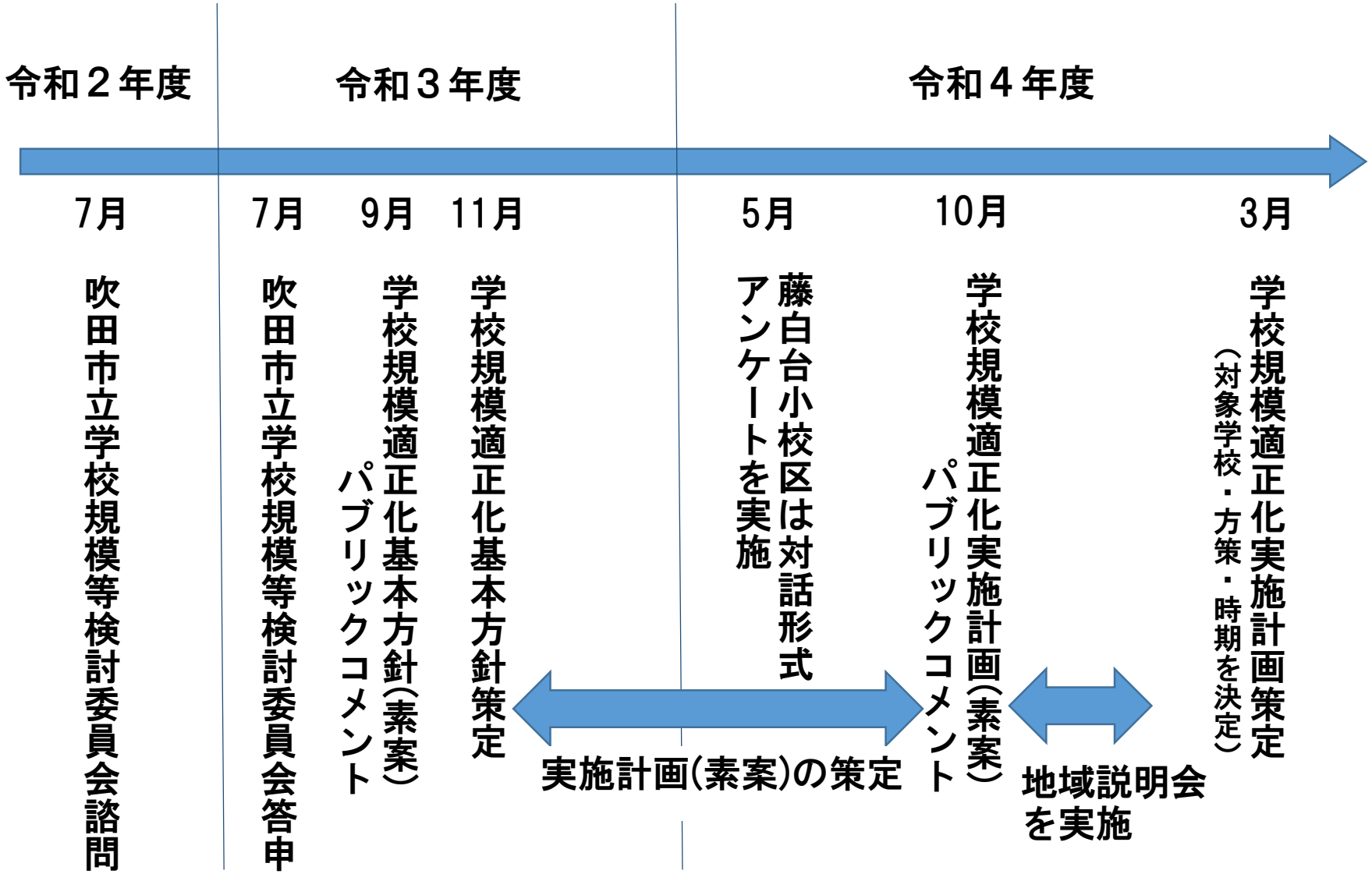
# 学校規模適正化の手法　～過大規模校の場合～

- 通学区域の見直し
- 校舎の増築等
- 教職員の増員
- 学校選択制の導入
- 学校の新設

# 藤白台小学校における過大規模校解消の方策の検討

| 方策 | 強み | 弱み |
| --- | --- | --- |
| 通学区域の見直し | 過大規模や教室不足が解消できる | ・在校生に転校の必要が発生する可能性がある。<br>・地域に不便・負担が発生する |
| 校舎の増築・建替え | 教室不足が解消できる | ・過大規模の解消はできない<br>・グラウンドを校舎用地にしなければならない |
| 学校の新設 | 過大規模や教室不足が解消できる | ・多額の経費を要するため、近隣学校で受入困難である状況が必要<br>・用地の確保が必要<br>・通学区域の見直しが必要<br>・在校生に転校の必要が発生する<br>・地域に不便・負担が発生する |
| 学校選択制の導入 | 希望者が転校するため、児童や保護者の負担が少ない | ・過大規模の解消ができるか不透明 |
| 教職員の増員 | 過大規模の課題が一部解消できる | ・過大規模の課題の一部しか解消できない |

# 学校規模適正化実施計画策定までの進め方



# おわりに

「子供たちにとってより良い教育環境を作る」ため、

ご理解とご協力をお願い申し上げます。